

拝啓

爽やかな初夏を迎え、木々の緑も日増しに深くなってまいりました。貴財団の皆様には、なお一層お健やかにお過ごしのことと存じます。もうすぐ訪れる太陽の季節を晴れやかな心で待っている、そんな気持ちで、お便りさせて頂いております。

一回生、

と申

します。

この度は、貴財団の奨学生として採用して下さい、本当に有り難うございます。まずは書中にて、心より御礼申し上げます。貴財団の奨学生として採用が決まりました現在、学業を継続できる、優先できるといふ喜びと安堵の気持ちで一杯です。そして、貴財団の皆様からのご期待に応えるといふ奨学生としての責務を自覚し、選ばれた栄誉に身も心も引き締まる思いです。

私が 大学に通うことは、奨学金の受給が無ければ困難です。

大学独自の奨学金として年間授業料の半額を受給する事はできていたが、たちまち後期の授業料が必要となりますし、通学定期は勿論、教科書や、サークル活動の費用。大学とは何とお金が掛かるのかと、大学の楽しさ素晴らしさとは裏腹に、お金の心配ばかりが膨らむ毎日でした。日本学生支援機構の奨学金は、限度額までお借りしています。しかし、このままでは莫大な借金を抱えて社会に出る事になってしまいます。何とかしようと一念発起し塾講師のアルバイトを週に五日ほど入れ少しでも収入を増やそうと試みましたが、帰宅も就寝も遅くなり、講義では集中を欠く始末でした。

我が家は母・私・姉・弟の母子家庭です。父亡き後、働きづめだった母は病気で働けなくなり、遂に身体障害者と認定されました。貧困から抜け出せるのは教育によってのみ、と

言う病床の母に励まされ、本来なら進学を諦めて就職し、家計を助けるべき状況ながらも、

大学に進学

しました。祖父の仕送り、児童扶養手当で、預貯金を切り崩しつつ何とか家計は維持してはいますが、高校生の弟も大学進学を希望しています。姉は、とある財団の奨学生に採用して頂くことで、医科大学の三回生になることが出来ました。私達が大学に掛かる費用の全てを自ら賄う事が、大学に進学する大前提となっています。こうした環境で、貴財団の奨学金は私にとって本当に、天の助けにも等しく大きな存在です。この度受給させて頂く奨学金は、その全額を大学の授業料と通学定期代に充てさせて頂きたいと思っています。本当に有り難うございます。感謝の気持ちで一杯です。この御恩に少しでも報いるため、奨学生の名に恥じぬよう、改めて学業に難中之難も乗り越える覚悟で勤しむ所存です。

私は、文学や歴史、学問としての宗教や哲学、神話に興味があり、拙いながらも自分の言葉で考えた事を文章に綴る事が好きです。卒業後は、新聞や本の出版、編集関係の仕事に就き、倫理観の違う海外での事柄を国内へ分かり易く伝えたいと思っています。貴財団のご支援で出来る余裕を活かし、外国語も学び直しから始めようと考えています。大学生活でしか経験できない活動や勉学に励み経験を積むことで社会に貢献できる人材に成長し、母にも恩返ししたいと胸に誓っています。この度は本当に、有り難うございました。

敬具

二〇一五年六月二十五日

学部

公益財団法人松口将実学会御中

